

地域環境保全功労者功績内容等

県別	氏名・職業	功績
青森県	青森生活学校連絡会 あおもりせいしかつがっこうれんらくかい 会長 佐藤 和子 会員数100名	<p>青森生活学校連絡会は、住みよい地域社会を目指し、豊かで安全な暮らしを目標に、活動を始めてから35年になる。同会では活動の1つとして、省資源・省エネルギーを目的とした地域のゴミの減量化の活動に積極的に関わり、回収し、その益金で10年間にわたる、年間約20本のペーンズで福祉施設に花木を植樹してきた。なお、赤益金115,782円は青森市の植樹事業に寄贈した。また、平成6年度からは古着の回収を実施し、集めた古着はフリーマーケットへの出品、海外の難民への提供及び小物作りの材料として活用している。</p> <p>更に、マイバグ運動の一環として、平成19年7月から「レジ袋減らし隊」運動を展開し、レジ袋をもらわない運動を各団体に呼びかけた結果、東北では初、全国では5例目となる、県と県内の主要なスーパーや百貨店等との間における、レジ袋有料化に関する協定の締結につながることができ、平成21年2月2日から県内の24事業者、231店舗での有料化が行われることとなった。</p> <p>これらの活動は、地域の住民とのコミュニケーションを図りながら実施されており、同会の活動及び姿勢は、地域の模範となるものである。</p>
岩手県	村上 未子 むらかみ すえこ 自営業	<p>・平成6年に陸前高田市地域婦人団体協議会会長就任以来現在まで、会員の共通かつ時宜的課題として一貫して環境問題に取り組んでおり、廃食用油利用せつけん作り、空き缶回収運動、リサイクルバザア開催、環境家計簿記憶運動などを実践し、定着させた功績は大きい。</p> <p>・陸前高田市地域婦人団体協議会会長として率先して地域の環境活動に関わり、その中心的な役割を果たしている（エコネット陸前高田会長、気仙川清流化対策推進協議会理事、気仙川流域基本計画推進協議会委員、けせん菜の花エコネット監事等）。さらに、陸前高田市環境審議会委員として行政へも積極的に意見を述べ、住民の意見を行政に反映させる役割を担っている。</p> <p>・個人としては古川沼をきれいにする会理事を務めるなど地域の環境問題に積極的に取り組むほか、平成11年度から現在まで岩手県環境アドバイザーとして、さらに平成13年度～平成18年度まで地球温暖化防止活動推進員として、岩手県内各地で講演会等の講師として人や自然環境にやさしい暮らしのための実践事例の紹介と生き方を示す呼びかけを行うなど、県内全域にその活動範囲を広げ活躍している。</p>
岩手県	五葉山の自然を守る会 ごようざんのしぜんをまもるかい 有限株式会社 ツカサ介護内（菅原長一郎） 構成員200名	<p>昭和60年の団体設立以降、五葉山権の木平を中心に、自然林の保全活動を展開。活動内容は、主として、伐採防止による自然林の保護と間伐活動と一般住民から広く参加者を募って年2回の自然観察会を継続して実施している。</p> <p>平成6年からは、地域の小学生や子供会と連携して、どんぐりを集めて育苗し、平成10年からは育てた苗木を植樹する『どんぐりの森作り』を展開。以降、毎年育苗と植樹活動を継続するとともに、植えつけた苗木の生育状況の確認や下草刈りなどの育樹活動のほか、植樹を行った山の登山道の整備などにも尽力している。</p> <p>自然観察会等の開催による一般住民の環境保全意識の高揚に貢献するとともに、自ら育苗及び植樹活動に取り組む、足元から地域の環境保全活動を継続的に支えてきた功績は評価に値する。</p>
秋田県	佐藤 敦 さとう あつし 秋田県立大学名誉教授	<p>平成8年度から、秋田県環境審議会委員として、土壌学、水環境学の専門的見地から審議に加わり、平成19年度からは同会長として、本県における環境政策の審議をまとめ上げるなど本県の環境行政の推進に大きく貢献している。</p> <p>また、八郎潟干拓地における土壌と農業についての研究を続けており、現在、当地域の多くの農家で実践されている“水質保全型農業”の礎を築くとともに、富栄養化による水質悪化が問題となっている八郎潟について、平成14年度から16年度まで八郎潟水質浄化対策専門委員会委員長として、複雑多岐にわたる汚濁機構の解明や浄化対策の検討に携わり、「八郎潟水質保全対策に係る提言書」の取りまとめに尽力した。</p> <p>特に、平成18、19年度には、八郎潟水質保全対策検討専門委員会副委員長として、湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼となつた八郎潟の「湖沼水質保全計画（第1期）」の策定に貢献した。さらに、平成20年度から、八郎潟研究会農業分科会会長として、第1期計画に盛り込まれた対策を効果的に実施するための手法の検討に取り組むなど、本県の環境保全対策の推進に大きな役割を果たしている。</p>

県別	氏名・職業	功 績
福島県	<p>水原の自然を守る会 みずはらのしぜんまももるかい</p> <p>会長 服部 善明</p> <p>会員 339名</p>	<p>【活動状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県全体において、特定希少野生動物植物に指定されているクマガイソウの群生地の保護育成 ・「クマガイソウまつり」による一般への公開 ・活動を通して、地域の活性化・小学校の総合学習等への貢献 ・群生地及び遊歩道の定期的な整備 <p>【活動地域の範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水原地区のクマガイソウ群生地及びその周辺（環境整備） <p>【功績の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定希少野生動物植物に指定されている「クマガイソウ」群生地の保護育成を行い、環境保全の普及啓発活動を行っている。（群生地及び遊歩道の定期的な整備活動、地域での環境保全啓発）
茨城県	<p>美浦村立美浦中学校科学部 みほそんりつみほちゅうがっこうかがくぶ</p> <p>教諭 高橋竜一</p> <p>生徒数 10人 教職員数 2人</p>	<p>当部は、霞ヶ浦の美浦村沿岸部の水質や浮遊物、農業廃水の調査を行い、地域の環境学習交流会や、アジア太平洋水交流会で発表するなど、霞ヶ浦の水環境について、国内はもとよより世界にも発信し、関心を高めている。また、霞ヶ浦周辺の水質調査を通して、継続した科学体験活動による生徒の科学的実質の向上を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年の活動では、霞ヶ浦の美浦村沿岸部の水質調査を行い、校内や地域で発表した。 ・平成14年は、霞ヶ浦流入3河川を調査し、霞ヶ浦の汚染原因のひとつとなつてきていることを確認した。 ・平成15年は、霞ヶ浦流入河川の水生物を調査し、校内や地域で発表した。また、その成果を県作品展に応募した。 ・平成16年は、農業廃水の霞ヶ浦への影響を調査し、枯葉や鉄による窒素やリンの浄化方法を検討し、地元で文化祭や活動交流会で生徒や一般参加者を前に成果を発表し、新聞や広報誌に取り上げられるなど大きな反響を得た。また、茨城県「体験学習」発表コンクールで研究発表し、茨城県教育賞を受賞した。 ・平成17年は、霞ヶ浦水中の浮遊物調査を行い、浮遊物の正体や水質の浄化方法の検討を行った。 ・平成18年は、NHK「日本の科学教育」の取材を受け、国内のほか、海外でも放映された。 ・平成19年には、エビの大量死の原因を調査し、水中の物質の結びつきによって水質が変化するという仮説を立て、その検証に取り組みほか、環境問題等について、地域の人人々に聞き取り調査を行った。 ・平成21年3月には、第3回世界子ども水フォーラムトルコ大会に参加する国内代表6名のうちに生徒が選ばれ、霞ヶ浦をはじめ国内の水問題について発表し、各国からの代表者と協議した。
栃木県	<p>福井 正信 ふくい まさのぶ</p> <p>総神戸製鋼所真岡製造所 技術部 環境管理室長</p>	<p>【研究開発者としての環境技術開発】</p> <p>①酸又はアルカリによる表面処理に関する技術として、有害物質をしない表面処理製品の開発を継続的にを行い、その一部を アルミニウム製飲料びん用キャップ材の塗装下地処理として実用化した。</p> <p>②塗装に関わる技術として、有機溶剤含有量の少ない水性塗料による塗装製品の開発を継続的にを行い、その一部をアルミニウム製飲料缶用蓋材の塗装処理として実用化した。</p> <p>【公害防止対策】</p> <p>事業所の環境管理専門管理者として、従来法規及び改正法規への対応を積極的に行い、環境の保全に努めている。近年は、VOC対策に注力している。</p> <p>【産業廃棄物対策】</p> <p>循環型社会の構築に向けて、廃棄物の再資源化及びゼロエミッション活動を推進している。</p> <p>【栃木県産業環境管理協会事業への参加】</p> <p>同協会等が主催する環境保全講習会、研修会等に出席し、事業所内の環境保全意識の高揚に努めている。</p> <p>【化学物質管理】</p> <p>国内法のみならず、欧州REACH規則への対応等、製品環境品質を保證するという観点からの取組みに主体的な役割を果たしている。</p> <p>【社会的活動】</p> <p>地域においても、自治会、ポランティア（鬼怒川河川敷清掃、もがお環境パートナーシッププロジェクトへの参加等）の活動に積極的に参加し貢献している。</p>

県別	氏名・職業	功績
栃木県	佐久間 清敏 さくま きよとし 社団法人栃木県産業廃棄物協会 会長	1 平成9年7月、さげはし化成株式会社(平成12年7月、日本アグリ株式会社)に社名変更)代表取締役(に就任し、有機性汚泥や動植物性残さ等のリサイクルに積極的)に取り組んでおり、排出者や肥料料などの利用者へ適切な情報を提供するなど、食品循環資源の有効利用を促進している。 2 これまでの「食品廃棄物の肥料化(再生利用)業務をもとに、いち早く、食品リサイクル法に基づく再生利用事業者の登録申請を行い、栃木県に於いて第1号の『登録再生利用事業者』になるなど、環境へ負荷を軽減しながら持続的な発展がでている。環境型社会の構築を目指し継続的に努力している。 3 平成4年5月、(社)栃木県産業廃棄物協会の理事に就任、同時に副会長に選任される。栃木県職員時代に担当した産業廃棄物に関する豊富な行政経験をもって、積極的に協会の協会の相談に応じ、常に適切なアドバイスを行うなど、会員の育成や業界の資質向上に尽力する他、永きに亘り役員として協会運営の重責を果たしたその功績は大である。 4 平成16年9月、当協会長に就任してからは、全員のみなさん産業廃棄物処理業全体として循環型社会の構築及び適正処理を推進するために卓越したリーダーシップを発揮するとともに、排出事業者、行政、地域住民等との協調に努力され、業界に対する信頼性の向上に大きく貢献した。また、(社)全国産業廃棄物連合会の常務理事として委員等に対し、関連法令の周知や遵守の徹底を指導し、業界に対する国民の信頼性を高めることに尽力するなど、産業廃棄物処理業界の健全な発展に尽力した功績は大である。
群馬県	シラネアオイを守る会 しらねあおいきまもるかい 会長 星野 大吉 会員 約250名	シラネアオイは、1科1属1種の日本固有の花で、かつて日光白根山に多く見られ、花がタチアオイに似ていることからシラネアオイという和名が付けられたといわれている。ところがその名の由来であるはずの日光白根山では、80年代半ばから動物(ニホンジカ)と見られる(シラネアオイ)の食害の影響が現れはじめ、「野の花の女王」と呼ばれ登山者に愛されてきた花は、90年代以降、激減してしまっ。シラネアオイを守る会は、こうした状況を憂い対策を検討した。平成6年に開催された「シラネアオイ復元検討委員会」での対策を引き継ぐ形で平成12年に発足。自然公園指導員や地元自治会、関係団体などを構成員とし、地元高校の協力を得ながら行われるボランティア活動として、シラネアオイの保護育成に取り組んでいる団体である。 オイの種子採取・播種・育苗・移植など、さまざまな活動を続けてきた。 特に活動の重点が置かれる跡ヶ池周辺・鹿押山南斜面では、一時は絶滅に近い状態にまでなっていたシラネアオイが、花群として認められるようになるなど、少しずつではあるが、植生回復の成果が上がっている。 また、清掃登山や登山者への美化啓発活動により登山道のゴミが減ったことも、同会の挙げられるべき功績である。 日光白根山は日光国立公園内にあり土地は民間企業の所有である。会では、復元検討委員会からの通算では15年間、会の発足からは9年間にわたって、国や県、地元片品村はもちろん、特徴的な自然環境学科を持つ群馬県立尾瀬高校、所有者の日本製紙総合開発(株)など広範な関係者の調整役を務めると同時に、リーダーシップを発揮して、難しい自然環境保全の課題解決に取り組んできた。同会のシラネアオイ復元へのひたむきな情熱と協働のお手本ともいえるべき地道な取り組みは、顕彰されて多くの人に伝えられ、記憶・記録されるべきと考えられる。
群馬県	箱島ほたる保護の会 はこじまほたるほごのかい 会長 篠原 好夫 会員 25名	昭和60年に箱島湧水が日本の名水百選に選定されたことを機に、昔のように湧水のとびかう自然をとりもどそうと箱島ほたる保護の会が数人の会員により発足し、その後会員を年々増加させ現在に至っている。 会では、手始めに湧水の保護地を作った。学校やPTAなどの協力を得て、下刈りや河川の清掃などの管理を行い、湧水保護地も第二、第三と拡大させていった。 湧水の発生源になると、会員が交替で毎晩保護地を巡回し、湧水の個体数や温度や天候などを記録する活動が昭和63年から続けられ貴重な記録となった。 その他には、会員が講師となり毎年「湧水学習会」を子供や保護者を集めて開催している他、「あずまのほたる」という小冊子を発行したりと、住民の関心を高めたり深めたりする活動も積極的に行われてきた。 現在では、関東だけでなく北海道から沖縄まで、見物客が年間一万人ほど訪れる。近年は伊香保をはじめ県内温泉地の客も訪ねては「思い出」を作って帰っていくまでになった。 箱島子どもホタルセンターの会は、子どもホタルや自然を大事にするような子供を育成しようとする活動が声掛けして地域に発足。班編制で運営されるほど参加者が集まり、鑑賞の他、保護地でカワニナやホタルの数を数えたり、ホタル等の昆虫や川、地域の自然、文化など人里のすばらしさを学ぶ活動まで行っており、活動支援も箱島ほたる保護の会が手掛けている。その結果、箱島子どもホタルセンターの会が作ったレポートは高く評価され、平成19年度には環境大臣表彰を、平成20年度には上位賞の特別賞を受賞した。地域づくりの柱として活動の報告会も開催され好評を博した。保護の会の活動は、環境保全活動はもちろん、人と小さな生き物が共存する「地域づくりの柱」ともなっているといっている。湧水を通じて環境や自然を保全することの大切さを伝える、環境意識の高い「次世代の人づくり」にも大きく貢献しているところである。

県別	氏名・職業	功績
埼玉県	<p>特定非営利活動法人埼玉森林サポータークラブ緑の森活動チーム <small>さいたましんりんさんざいぼーたーくらぶみどりのもりかつどうちーむ</small></p> <p>理事 伊東 喜寿 <small>いとう ききう</small></p> <p>構成員 50名</p>	<p>狭山丘陵の一部(さいたま緑の森博物館)にて、ボランティアで継続して雑木林の管理をしている。活動開始以来、平成20年度末で7年半、活動回数は延べ1,200回、参加者は延べ2,057人、活動場所面積は延べ9,77haである。活動場所は萌芽更新跡地で、内容は、地植え、植栽、下刈、除伐、間伐、芽吹き、伐打ち、つる切り、枯損木の処理、林内整理、落ち葉掻き等の雑木林における一連の活動である。</p> <p>その他にも地元の団体や小学校と連携して環境保全への理解を深める活動を行っている。具体的には平成17年度から所沢市の「八幡湖地保存会」、入間市高寺の「輝の会」の方々とともに所沢市三ヶ島小学校、入間市高寺小学校を対象に保護者や先生の参加を得て「どんぐりを育てる会」を毎年11月に実施している。ここでは、どんぐり拾いと播種(ポットに植える)を行い、植えたどんぐりは持って帰って観察できるようにしている他、どんぐりの種類への知識を深めてもらうなどを行っている。また、平成16年には雑木林の区割り、下刈の意義等環境保全についての体験講座を実施している。</p>
埼玉県	<p>特定非営利活動法人 和光・緑と湧き水の会 <small>わこう・みどりとかきみずのかい</small></p> <p>代表理事 高橋 嗣世 <small>たかはし せうせい</small></p> <p>会員 64名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な自然を知り、親しみ、守る活動の継続。 ・ 湧水・緑地等の武蔵野台末端部の特徴的な自然環境を継続的に調査し、現状の把握に努めた。 ・ 市内湧水・緑地(和光御林公園コナラの森、新倉ふれあいの森、白子湧水群、大坂ふれあいの森)の調査を基にした生態系保全活動の実施。 ・ 埼玉県里の山守市民管理協定制度に認定された「新倉ふれあいの森」の保全活動の実施。 ・ 小中学校の環境学習、地域学習への協力 ・ 市民向け観察会による自然と触れ合う活動の推進。 ・ 「和光市湧き水と緑地マップ」、「和光の身近な自然探訪」、「白子湧き水ふれあいMAP」、「和光の緑と湧き水」出版、会報VERDAの発行、及び和光市民新報紙への身近な自然への記事連載による一般への広報活動を継続。 ・ 和光市環境づくり市民会議及び和光市緑地保全計画策定委員会への参加による行政への協力。 ・ 「自然の保全と再生に向けたセミナー」、「日曜地学ハイキングと湧水フォーラムin和光」を開催し保全の関心を高めた。 ・ 「和光市環境保全功労賞」受賞 ・ 「第10回さいたま環境賞・県民部門」受賞
千葉県	<p>新藤 静夫 <small>しんどう しずお</small></p> <p>千葉大学名誉教授</p>	<p>地学の専門家として昭和61年から平成19年3月まで千葉県公害審査委員会として公害紛争の迅速かつ適正な解決に尽力した。さらに、他県においても、神奈川県水質保全対策推進委員会委員、東京都環境影響審査委員会委員、東京都環境影響審査委員会委員、千葉県環境保全推進委員会委員、同審議会温泉部会部長として環境保全施策に関する基本的調査、審議に携わるなど、本県の環境行政の推進にも大いに貢献している。</p>
富山県	<p>鴨川にもサケを呼ぶ会 <small>かもがわにもさけをよぶかい</small></p> <p>会長 林 靖太 <small>はやし やすた</small></p> <p>会員187名</p>	<p>昭和63年の設立以来、21年の長期にわたり、魚津市の中心部を流れる鴨川の清掃や、地元小学生と連携したサケ等(雑魚)の飼育、放流など、地域の水環境の保全及び環境教育の推進に多大な貢献をしている。</p> <p>サケが回帰する清流をとり戻すことを目標に継続されている本団体の活動や下水道の整備によって、昭和60年代には県内ワースト3に入るほど汚れていた鴨川の水質、美観は著しく改善され(BOD S60:8.1mg/l→H19:0.9mg/l)、現在では、バイカモが育ちアユやヤマメが群れる清らかな川へと生まれかわっている。本団体の主な活動内容、功績は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設立以来、毎月1回、鴨川の定期清掃を実施するとともに、毎年1回、地域住民や地元企業、関係団体と合同の一斉清掃を実施している。また、毎年3月にサケの稚魚の放流を実施しているほか、市内の小中学校に対して稚魚の飼育、放流に関するノウハウを提供するなど、技術的支援も行っている。 ・ 会報「清流」(年1回)及びミニ会報「サケ通信」(年3回)を発行し、会の活動状況と併せて生活排水対策や鴨川の水質環境、水生生物の生息状況に関する情報を地域に向けて発信している。 ・ 環境教育を一層推進するため、県内外の小中学校や水環境保全団体と広く交流をもち、研修会等において団体相互の活動報告、意見交換を行っている。(会設立10周年行事「サケに学ぶ環境教育全国サミット」(平成9年11月)、20周年行事「山・森・川・海に学ぶサミットin魚津」(平成19年8月)) <p>これまでに鴨川に回帰したサケは累計150匹以上となり、本団体の継続的な水環境保全活動や環境教育活動が評価され、鴨川が未来につながる地域のためからの「とやま未来遺産」に選定されている。</p>

県別	氏名・職業	功績
長野県	須田 莊一郎 すだ そういちろう 長野市環境美化連合会副会長	平成6年度から、第五地区南石堂町（JR長野駅前周辺地区）衛生組合副組合長に就任し、同年より長野市で開始したごみの5分別について、行政に協力し町の先頭に立って集積所での分別指導を行った。 平成10年度から第五地区南石堂町衛生組合長（現 第五地区南石堂町環境美化推進会長）に就任し、地区衛生組織の充実強化に貢献するとともに、引き継ぎごみの分別指導やごみ集積所の見回り指導を行うなど、地域の環境美化に積極的に関わり、大きな成果を上げている。 平成17年度からは第五地区環境美化連合会会長に、また平成18年度からは長野市環境美化連合会副会長として、地域での活動はもとより、長野市全体の環境衛生の向上や衛生組織の強化にも取り組み、その功績は大である。
愛知県	飯倉 文志 いたくら ふみただ 名城大学理工学部教授 愛知県環境審議会振動部会長	専門の騒音・振動に関する知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営に尽力され、環境保全行政の推進に尽力された。 （愛知県環境審議会） 平成5年2月から平成14年7月までの9年6ヶ月にわたり愛知県環境審議会専門委員に就任し、環境保全に関する専門的な調査・審議をおこなった。また平成14年8月から平成16年7月までの2年にわたり、同審議会の委員として審議会の運営に貢献した。さらに平成16年8月からは同審議会の騒音振動部会長となり、航空機騒音に係る環境基準の類型当てはめ等、騒音・振動に関する専門的事項の審議を行うため部会長のとりまとめに尽力している。 （公害審査会） 昭和63年11月から平成9年10月まで9年にわたり、愛知県公害審査会委員として騒音・振動に係る専門的事項の審議に貢献した。
愛知県	今泉 東洋子 いまゑ とよこ 総合科学技術会議員	専門の化学分野の知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営を行い、環境保全行政の推進に尽力された。 （愛知県環境審議会） 平成10年8月から平成18年7月まで8年にわたり、愛知県環境審議会の委員として廃棄物関係の専門事項の審査、審議に貢献した。 （公害審査会） 平成12年11月から平成18年10月まで6年にわたり、愛知県公害審査会委員として悪臭事件等にかかる専門事項の審査、審議に貢献した。 （愛知県環境影響評価審査会） 平成11年4月に県条例に基づき設置された愛知県環境影響評価審査会では、委員として大規模な開発案件における環境影響評価についての審査に貢献している。
京都府	福知山市自然科学協力員会 ふくちやまししぜんかがくきょうりょくいんかい 会長 吉井雅宏 構成員21名	昭和52年福知山市文化会館に開設した自然科学室の運営指導を目的として、動植物・地学等に詳しい小中高教員OBと一般市民等のボランティア10名からなる「自然科学室運営委員会」として発足し、昭和60年7月には福知山市児童科学館の開館に伴い、福知山市自然科学協力員会と名称を変更して活動を展開している。 以来、31年間の活動では、自然科学室の展示物等の企画運営や、一般市民を対象とした自然観察会等を実施し、環境保全の大切さを啓発するほか、水質保全啓発を目的とした由良川などでの水生生物観察会の開催や、大気保全啓発を目的とした星空観察会を開催するなど、環境保全への取り組みの功績は大きい。また、福知山市及びその周辺の豊かな自然を調査した報告書を刊行するなど、後世に残る貴重な資料を作成している。さらには、平成13年に発足した「福知山子どもサイエンスレジャークラブ」の指導団体として、子どもを対象とした自然科学教育推進への貢献も顕彰に価する。 平成17年からは、福知山市環境基本計画を推進するためのパートナーシップ組織である「福知山環境会議」に参加し、市の環境施策の推進に大きな役割を果たしていることも特筆すべき点である。

県別	氏名・職業	功 績
奈良県	<p>御所市地域婦人団体連絡協議会 ごせしちいさるじんだんたいれんらくきょうざかい</p> <p>会長 中島 祐子 構成員 約400名</p>	<p>大和川の支流である葛城川流域において、主婦の立場から環境保全に向けた取り組みを促進するため、洗剤のいらないアクリルたわしの利用促進や、「広がれ輪と和」や「川の教室」といった河川への関心を促す環境イベントの開催、また下流との交流を図る「生活排水交流会」など、行政と協働した地域の環境保全の推進に多大な貢献をされている。</p> <p>活動開始：平成2年6月 活動人数：約50名（常時活動の役員・班長等） 活動範囲：葛城川流域を中心に奈良県全域 活動頻度：随時</p> <p>奈良県精進川流域実践モデルに指定された御所市環境美化運動に対して、葛城川清掃運動や花いっぱい運動など積極的な取組を進めた結果、葛城川の河川環境の改善や市民の環境保全に対する意識が向上。</p> <p>・平成2年より青少年健全育成活動の一環として、夏休みの期間を利用して、行政と地域住民が密に協力して様々な催しを行うイベント「広がれ輪と和」を開催。行政と住民、住民と住民が密にふれあう協働事業として、奈良県下で高い評価を得ている。また、「大和清流ルネッサンス21計画」に参画以降は、計画以降は、計画の一環として開催している。</p> <p>・大和川清流ルネッサンス21計画への参画以来、アクリルたわしづくりを同婦人会の活動事業に取り入れ、奈良県下一円で開かれる環境イベントでアクリルたわし作成講座を年10回以上行い、その普及啓発に貢献している。</p> <p>・水切りネットの使用等の普及啓発も行っている。</p> <p>・平成6年より、リバーウオッチング・水生生物の観察・水質検査などの川や水とふれあうイベント「川の教室」を行い、小中学生の環境保全意識の高揚に寄与している。また、奈良県環境県民フォーラム参画後は、同フォーラムとタイアップして開催している。</p> <p>・平成16年より、大和川の下流にあたる大阪府八尾市の市民団体と生活排水交流会を開催（上流と下流）。水に関する施設見学や水質改善に向けた意見交換などを行い、お互いの理解を深める機会を創出している。</p>
奈良県	<p>特定非営利活動法人エコバートナー21 えこばとなーにじゅういち</p> <p>代表理事 森 正 構成員 60名</p>	<p>地域社会の中から21世紀を担う子供を対象に、環境ミュージカルの開催やキャンプ・ワークショップなどの各種体験教室の実施、また小中学校やこども会を対象とした環境教育プログラムの実施、その他にエコ教材の製作や様々なキャンペーンを行うなど多岐にわたった活動を行い、環境教育の推進に貢献している。</p> <p>活動開始：平成1年 活動人数：40名（年間を通じて常時活動メンバー） 活動範囲：奈良県内を中心として近畿圏 活動頻度：毎週</p> <p>①環境ミュージカルの開催（平成9年～） 主催のほか機会を捉えて環境フェアや特別養護老人ホーム、シンポジウムなどで開催し、環境問題の認識拡大に貢献。平成12年からにはミュージカルに「モモ」・「ガイア」・「ライトプレイス」・「クレヨン天国はおさわぎ」・「龍宮のひみつ」・「12の月の贈り物」・「青い鳥をさがし」・「オズオズの魔法使い?」・「笛吹きのゴータ」</p> <p>②環境教育プログラムの実施（平成12～平成19年末時点でのべ276教室） 小中学校やこども会にも会に出向き、ケナフ紙すき教室、人形劇や省エネルギー講座などの各種環境教育プログラムを実施し、子ども達の環境保全意識の高揚に寄与。また、大人を対象とした指導者養成講座も実施。</p> <p>③体験教室の実施（平成5年～） エコキャンプ、リサイクル工作教室、ケナフの紙すき教室、自然観察会、自然観察会、こどもエコ園、こども料理教室、こども夏の体験学習、竹とんぼ活動（竹林整備と竹細工づくり）等を行い、環境への関心を高める機会を創出。</p> <p>④こどもエコクラブの推進（平成5年～） 体験教室などにこどもエコクラブの参加を促し、こどもエコクラブ同士の交流を図っている。</p> <p>⑤エコ教材（冊子、絵本など）の製作（平成12年～） ミニエージェンシーや環境教育プログラムで活用し、他団体にも教材として提供。</p> <p>⑥「ゆうこちゃんとかわいみかめ」・『お魚さんたちの会』 ・『水曜日』・『お魚さんたちの会』 ・『ケナフの花咲かせよう10万本』…ケナフの種を配布。育成を通して、地球にやさしい生き方を考える。 ・『生き物にやさしい川にしよう』…川の清流を通じ、生活と水質汚染について考える。 ・『西大寺の町をきれいにしよう』</p> <p>など</p>

県別	氏名・職業	功績
島根県	大塚 一郎 <small>おおつか いちろう</small> 社団法人島根県産業廃棄物協合理事	平成元年に産業廃棄物処理業の許可を取得、安定型最終処分場として地域の産業廃棄物の適正処理の受け皿となり、平成6年からは建設廃棄物(がれき類)のリサイクル施設を設置、資源の再生利用を推進した。 平成3年の島根県産業廃棄物協会設立に参加し、産業廃棄物の適正処理の推進と業界の資質の向上に尽力してきた。不法投棄防止パトロール及び撤去作業においては島根県東部地区において中心的役割を担い積極的に活動した。 また、平成7年に社団法人島根県産業廃棄物協会の理事に就任と同時に、総務運営委員会委員として産業廃棄物経営セミナー・従業員研修会・保健所との懇談会等の各種研修会の開催及び運営に尽力し、廃棄物処理法の解説並びに理解を広めるとともに、産業廃棄物業界全体の資質向上に努め、適正処理と島根県の生活環境の保全に努力した。
島根県	松江市連合婦人会 <small>まつえしれんごうふじんかい</small> 会長 日高 延子 会員 1,776名	環境問題への取り組みは、昭和38年の美化運動推進のため市内各所に金属製のゴミカミがこの香踏から始まり、常に女性、主婦の目線で昭和30年代、40年代からすでに広告や過剰包装といった環境問題に取り組む、その後、松江市のゴミ処理対策の実践活動推進チームを編成し、3ヶ年計画の活動として資源ごみの回収ルートについて市や業者への申し入れやゴミの減量とリサイクルの必要性を標語として全市的な運動とした。また、牛乳パック回収活動、ごみ減量についての劇の創作上演、資源回収に関する要望書の提出、環境施設見学、講演会の開催、市民活動の輪を広げるため「ごみを語る松江市民のつどい」の事務局、リフォームフアンクションの開催、資源ゴミの分別作業、リサイクルステーションの実態調査と分別指導、「まつえ環境市民会議」参加による環境保全活動の取り組みなどにより、松江市の環境保全活動に多大なる貢献をしている。
岡山県	岡本 輝代志 <small>おかもと きよし</small> 岡山商科大学学長補佐 岡山県環境審議会産業廃棄物対策部会長	平成6年発足当時から岡山県環境審議会産業廃棄物対策部会長として、専門的な見地からの審議や本県における環境施策の啓蒙などに尽力している。 また、平成12年から「岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議」の会長として、廃棄物の発生抑制や再利用及び再生利用の促進に努めている。さらに、平成14年からは「岡山県グリーン購入対策会議」の会長としてエコ製品の購入利用の促進に積極的に関わり、循環型社会の形成推進に率先して取り組むなど、長年にわたり本県の多岐にわたる環境保全行政の推進に多大な貢献をしている。
広島県	西条・山と水の環境機構 <small>さいじょう・やまとみずのかんききょう</small> 理事長 石井 泰行 会員数 150名	・西条酒造協会加盟者からの拠出金「西条・山と水の基金」により運営されている団体で、産官学・市民の協働による里山の保全活動に積極的に取り組んでいる。 ・平成13年から龍王山願いの森公園で、小学生対象の環境学習を実施するとともに、憩いの森一帯の水質・水量の定点観測調査や、森林管理の形態が植物群落等へ与える影響などを継続して調査している。 ・西条の水源の山となつて「龍王山願いの森公園」を拠点に、市民参加による山の手入れ作業や炭焼きを定期的に実施するとともに、小学生や保護者を対象とした炭を利用した水辺環境美化、湧水めぐりや、きき水、炭による浄化作業等の自然観察など、山と水のグランウンドワークを積極的に実施している。 ・なお、平成14年からは、龍王山願いの森公園の除伐を実施しており、この作業が広島大学の「森林と人間」講座や近畿大学の「東広島学」講座の学生野外実習として認定されている。 ・平成18年度には、第5回ひろしま「山の日」県民の集い(第30回全国首樹祭記念行事)や他の森林保全活動に積極的に参加するとともに、森林保全活動等への支援事業を行っている。 ・平成18年には、地下水部会を設置し、平成19年から、西条盆地の地下水保全を目的に、地下水の流動・水質の実態把握の調査と研究を岡山大学・広島大学と共同で実施している。 ・これらの活動を通じて、龍王山願いの森公園の森林保全や清流の環境保全、また地下水の適正利用の働きかけに積極的に取り組むとともに、大学や小学生に森林保全の重要性についての啓蒙に努めている。

県 別	氏名・職業	功 績
広島県 広島県立忠海高等学校 科学研究部 ひろしまけんりつ ただのらみこうとうがっこう 部長 西原 実香 部員7名	平成12年から竹原市沿岸及びその周辺を主なフィールドとし、スナメリ、ナメケジウオ、カブトガニといった絶滅の危機に瀕している希少生物の調査・研究に取り組んでいる。 ・また、研究成果を基に、地域の小・中学生やボランティア団体に対して、講演会「エコセミナー」を開催し、環境啓蒙の活動にも取り組んでいる。「エコセミナー」では、竹原市沿岸の美しい自然や広島県の絶滅危惧種に指定されている生物が多く生息していることをアピールし、海の写真に心をもちよう訴えている。 ・科学研究部とボランティアサークルが、平成17年10月に「せとうち海選隊」に認定され、海浜清掃活動に積極的に参加するとともに、生物調査や漂着ゴミの調査に取り組んでいる。 ・平成19年5月から、科学研究部や生徒エコ委員会が中心となり、校内の環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいる。具体的には、校内の消費電力やゴミの排出量などを継続的にチェックし、その環境負荷を把握して、その環境負荷削減のため手立てを計画し、実行している。特に、ゴミの削減については、平成18年度の排出量が11,713kgであったのに対し、平成19年度は5,598kgと半減させるなど、取組みの成果が表れている。 ・最近、竹原市賀茂川河口部前浜干潟(ハチの干潟)におけるモニタリング調査(生物調査)の継続実施、「アダプト(里親)制度」による美化活動(学校周辺の海岸)、山口市秋穂二島でのカブトガニ生態調査を実施している。	平成12年から竹原市沿岸及びその周辺を主なフィールドとし、スナメリ、ナメケジウオ、カブトガニといった絶滅の危機に瀕している希少生物の調査・研究に取り組んでいる。 ・また、研究成果を基に、地域の小・中学生やボランティア団体に対して、講演会「エコセミナー」を開催し、環境啓蒙の活動にも取り組んでいる。「エコセミナー」では、竹原市沿岸の美しい自然や広島県の絶滅危惧種に指定されている生物が多く生息していることをアピールし、海の写真に心をもちよう訴えている。 ・科学研究部とボランティアサークルが、平成17年10月に「せとうち海選隊」に認定され、海浜清掃活動に積極的に参加するとともに、生物調査や漂着ゴミの調査に取り組んでいる。 ・平成19年5月から、科学研究部や生徒エコ委員会が中心となり、校内の環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいる。具体的には、校内の消費電力やゴミの排出量などを継続的にチェックし、その環境負荷を把握して、その環境負荷削減のため手立てを計画し、実行している。特に、ゴミの削減については、平成18年度の排出量が11,713kgであったのに対し、平成19年度は5,598kgと半減させるなど、取組みの成果が表れている。 ・最近、竹原市賀茂川河口部前浜干潟(ハチの干潟)におけるモニタリング調査(生物調査)の継続実施、「アダプト(里親)制度」による美化活動(学校周辺の海岸)、山口市秋穂二島でのカブトガニ生態調査を実施している。
徳島県 キョーエイ本部 きょうえい ほんぶ 代表取締役社長 埴淵 一夫 社員 約2,300名	キョーエイ本部は、永年により、買い物袋の削減、空き缶等の資源回収、ごみの減量化、簡易包装の推進及びリサイクル活動を積極的に行い、地域の環境保全に貢献し、その実績は顕著である。 ①徳島県エコショップの第一号認定 平成6年にスタートした徳島県エコショップ(資源の節約、リサイクル、環境保全型商品の販売など「環境にやさしい店」として県が認定)の第1号店として先駆的に取組み、永年にわたり地域に多大な貢献を行っている。 ②買い物袋の削減 エコスタンプカードを発行し、マイバック持参者にスタンプを押印する。スタンプカードが貯まったカードはお買い物券として利用できる。また、レジ袋を渡さない取組みも実施している。 ③地域の資源回収 各店舗の店頭において、分別回収ボックス(缶、瓶、トレイ、牛乳パック、乾電池など)を設置し、資源回収を行っている。 ④店舗から出るごみの資源化 店舗から出る油、魚のあら、段ボール、発砲スチロール等を分別し、リサイクルする。 ⑤簡易包装の推進 お中元や贈答品等について、簡易包装の協力を呼びかける。	キョーエイ本部は、永年により、買い物袋の削減、空き缶等の資源回収、ごみの減量化、簡易包装の推進及びリサイクル活動を積極的に行い、地域の環境保全に貢献し、その実績は顕著である。 ①徳島県エコショップの第一号認定 平成6年にスタートした徳島県エコショップ(資源の節約、リサイクル、環境保全型商品の販売など「環境にやさしい店」として県が認定)の第1号店として先駆的に取組み、永年にわたり地域に多大な貢献を行っている。 ②買い物袋の削減 エコスタンプカードを発行し、マイバック持参者にスタンプを押印する。スタンプカードが貯まったカードはお買い物券として利用できる。また、レジ袋を渡さない取組みも実施している。 ③地域の資源回収 各店舗の店頭において、分別回収ボックス(缶、瓶、トレイ、牛乳パック、乾電池など)を設置し、資源回収を行っている。 ④店舗から出るごみの資源化 店舗から出る油、魚のあら、段ボール、発砲スチロール等を分別し、リサイクルする。 ⑤簡易包装の推進 お中元や贈答品等について、簡易包装の協力を呼びかける。
徳島県 佐那河内村 常会 さなごうちん じょうかい 会長 松尾 肇 (佐那河内村長)	昭和14年の設立以降、長年にわたる河川清掃活動や道路清掃活動などの地域美化活動に加え、現在まで、常会を主体とした住民主導のごみ分別(33分別)活動により、地域環境の保全に努め、他の模範となる活動を続けている。 ※河川一斉清掃と道路清掃活動については、人口3,000人弱の小さな村で、毎年約800人もの住民が参加して地域美化活動を行っている。 具体的には、全村を上げた活動として、河川一斉清掃は毎年4月頃、道路清掃活動は毎年8月頃に各世帯から少なくとも1名は参加し実施。 ※佐那河内村内のゴミ集積所23ヶ所あり、行政から決められた分別数は9分別であったが、村内の新町地区の常会がモデル的に「ゴミ分別」に取り組むを始めた。この住民主導の活動が、行政とのワークショップも重ねることにより、平成16年以降に村全域に広がり、佐那河内村の廃棄物行政で考えうるキッカケとなり、その結果、村全体のゴミ分別数は33分別となった。	昭和14年の設立以降、長年にわたる河川清掃活動や道路清掃活動などの地域美化活動に加え、現在まで、常会を主体とした住民主導のごみ分別(33分別)活動により、地域環境の保全に努め、他の模範となる活動を続けている。 ※河川一斉清掃と道路清掃活動については、人口3,000人弱の小さな村で、毎年約800人もの住民が参加して地域美化活動を行っている。 具体的には、全村を上げた活動として、河川一斉清掃は毎年4月頃、道路清掃活動は毎年8月頃に各世帯から少なくとも1名は参加し実施。 ※佐那河内村内のゴミ集積所23ヶ所あり、行政から決められた分別数は9分別であったが、村内の新町地区の常会がモデル的に「ゴミ分別」に取り組むを始めた。この住民主導の活動が、行政とのワークショップも重ねることにより、平成16年以降に村全域に広がり、佐那河内村の廃棄物行政で考えうるキッカケとなり、その結果、村全体のゴミ分別数は33分別となった。

県別	氏名・職業	功績
福岡県	<p>島田 允堯 しまだのぶたか 九州大学名誉教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県南地域地下水汚染原因等検討委員会委員(平成6年6月～平成7年3月) 福岡県南地域地下水汚染原因等検討委員会の副委員長として、福岡県南地域における地下水砒素汚染の原因の究明と、地下水汚染地域での井戸水飲用者への健康影響を調査に尽力した。 地下水砒素汚染対策検討委員会委員(平成8年11月～平成10年3月) 福岡市及び大野城市における地下水の水銀汚染を受けて設置された地下水水銀汚染対策検討委員会において、副委員長を務め、汚染の原因究明に尽力した。 福岡県環境審議会委員(平成9年9月～平成20年11月) 平成9年に福岡県環境保全審議会(現環境審議会)委員に就任し、地質鉱物分野の専門的な見地から環境行政の推進に貢献した。また、平成11年から環境審議会温泉部会長として、温泉行政の推進に尽力した。その他、公害防止事業費用負担部会委員として、筑紫野市や大牟田市の水質汚染などについての費用負担計画の審議に携わった。 筑紫野市の産廃処分場事故調査委員会委員(平成11年10月～現在) 福岡県公害専門委員(平成12年8月～現在) 福岡県公害専門委員として、公害に係る水質保全に関して専門的な見地から技術的助言を行い、土壌・水質汚染対策に貢献している。 福岡県産業廃棄物審議会委員(平成13年4月～現在) 産業廃棄物の処理に関する重要な事項についての調査・審議に携わっている。 旧若宮町産業廃棄物不法投棄対応検証委員会(平成16年7月～現在) 旧若宮町産業廃棄物不法投棄事業に係る本県の対応について検証を行うとともに、支障の除去等を実施するにあたっての技術的評価評価に携わった。 <p>上記のとおり、氏は多年にわたって、専門的な見地から本県環境行政の推進に大きく貢献している。その他、北九州市、福岡市、大牟田市など県内各市町村においても、環境保全に関する審議会・委員会委員を歴任し、環境保全に尽力している。このように、氏の本県環境行政の推進に寄与された功績には多大なるものがあり、表彰に値するものと考えられる。</p>
福岡県	<p>久留米市女性の会連絡協議会 くろめじょせいのかいれんらくきょうぎかい 会長 池田 博子 構成員 3,000人</p>	<ol style="list-style-type: none"> 河川の浄化活動について 昭和55年から河川の浄化活動として食用油廃油を回収し、石けん作りを始め、1回に約600リットルの廃油を回収して、約1,200個の廃油石けんを作っている。その石けんは、公民館やいろいろなイベント等(生涯学習フェスタ、校区の文化祭・夏祭り等)で住民に販売するなど、住民との交流を通して廃油石けんや河川の浄化活動の普及啓発を行っている。また、各家庭の流し台の流し口に、使い古しのストッキング等を利用して、野菜くず等を河川に流さない取組などにも取り組んでいる。 マイバッグ運動について 平成12年からごみ減量の推進として、会員全員でマイバッグ運動に取り組んでいる。平成19年6月25日には、行政・消費者団体等と共催して「レジ袋削減宣言行動せしめこーし」を開催し、普及啓発に努めている。スーパーマーケット等でマイバッグを持参した場合に押印してもらうカードを会員全員に配付して、レジ袋削減に取り組んでいる。 このように一貫して活動の姿が市民の共感を博し、環境の浄化・保全に多大な貢献をしている。